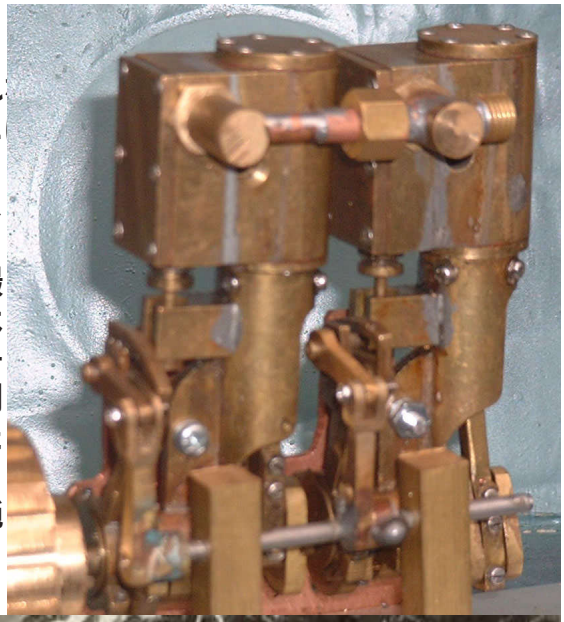
目下改修中　　豪華客船　クインメリー号　　1/200

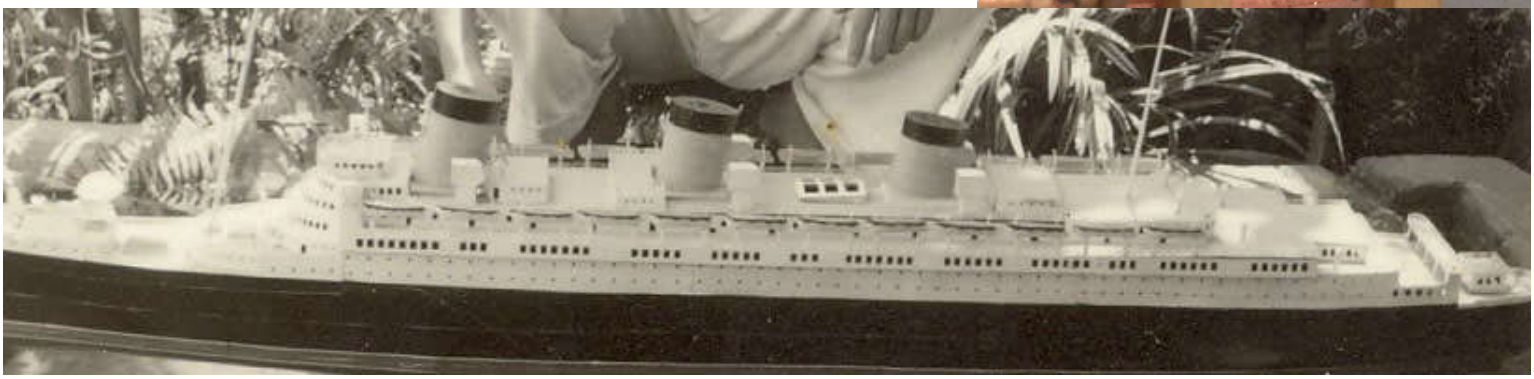
、1954年9月、月刊ポピュラ、サイエンス日本語版誌上に、『豪華客船クインメリー号1/200模型の作り方』の記事が紹介された。著者は伊藤主税とあり、2か月にわたる製作記事は、安価なブリキ板を材料に、全てが手作りであったので早速コピー製作をすることなった。工具はブリキ鋏にハンドドリルと組ヤスリ。接合は全てハンダ溶接で、ビスはほとんど使用しなかったと思う。ちなみに同船は全長309m総トン数8万　旅客 2500人、船員1100人、姉妹船クインエリザベスと共に、イギリスを代表する豪華客船であった。四角の窓は、全てドリルの下穴をヤスって整形するなど、手間暇かけた、懐かしい工作時代であったが、50年経た今日すっかり傷つき大修理となった。

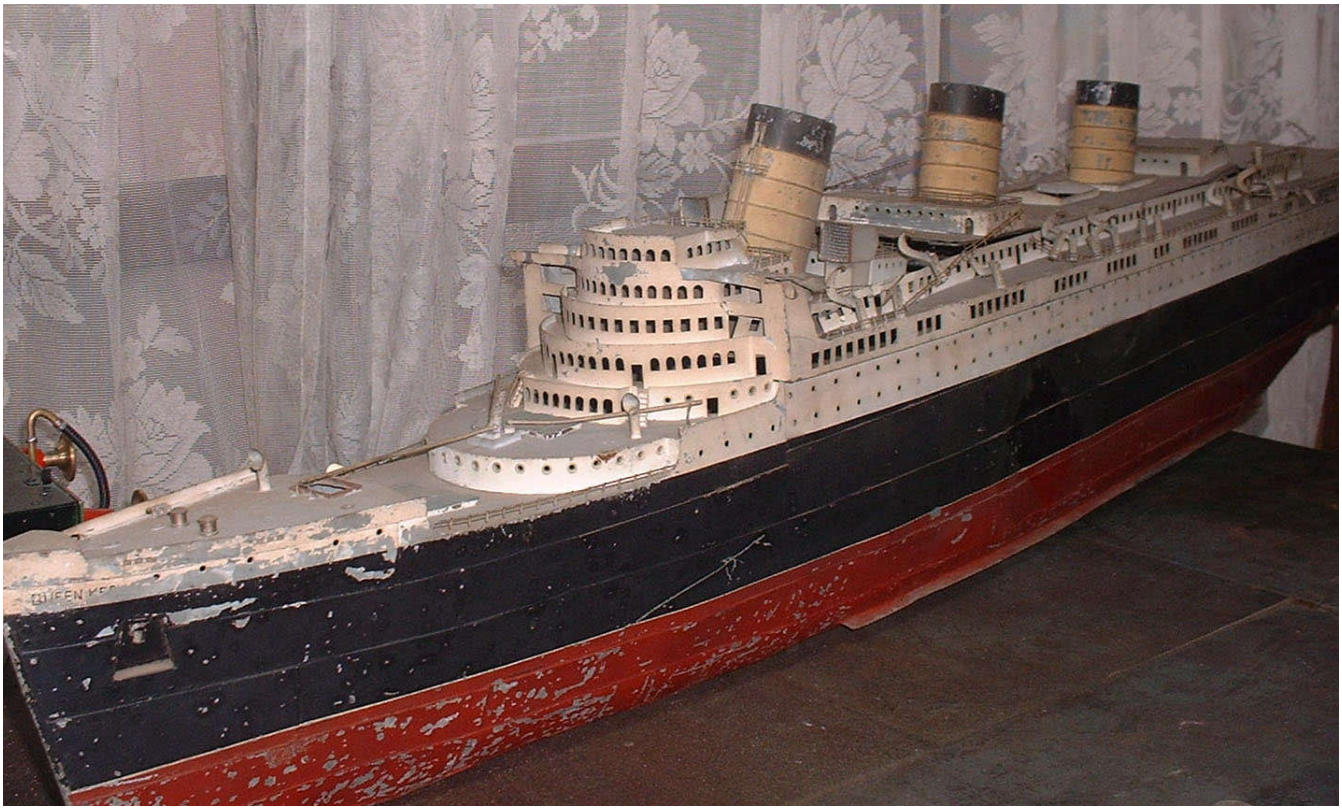


動力はバッテリー12Ｖ，電池用ミニチュア真空管を使用した機材でのラジコン操作は、当時としては先端技術だったかも知れない。ただ排水量がおおきい為、喫水線まで船体を沈めるためには、かなりの荷重を積載する必要があった。

以来50余年、様々なエピソードがあったが、1987年、イギリスのミュージカル、スターライト、エクスプレスの来日公演の折その主要スッタフが、模型クインメリー号を中央に記念撮影を撮ったことであった。イギリスで開発大成した蒸気機関については国民的な誇りがあり、たとえ模型と言えど、巨船クインメリー号の存在は大きな感動であったことでしょう。たまたま愚息が、同公演の音楽関係を主掌していたことが縁で、話題となり実現した次第。

ミュージカルのテーマは。華やかな電気機関車に混ざって、鈍重なＳＬが最後に脚光を浴びるという、いかにもイギリス人らしいストリーであった。





続クインメリー

スターライト。エクスプレスのスッタフとの記念写真

スタッフの内、特にお世話になったステージマネージャーには、愚息がお礼の意味で、2,5吋ゲージ国鉄Ｃ57機関車を、お贈りしたが、後刻鄭重な礼状を頂いた。家宝として末長く大事にしたという意味合いには、同機の貴婦人というネームヴリュウが花を添えたことと思われる。正に誇りある蒸気機関のお国柄。

　この模型の唯一の市販部品は、テスリである当時どこの模型屋さんでも購入できたこのテスリも。子ども達の需要がなくなり消え去ってしまったが。たまたま科学教材社で10数本の残品を見つけてやっと修複のめどがついたのは、7.8年前のことである、
　エンジンは2.5吋シエイ用に試作の2気筒立型があり、これを利用する予定。船舶はＳＬと異なり。小馬力ですむので、小さいエンジンで十分間にあう。また24隻あった救命艇は、全て脱落紛失、全体の組み合わせ部分も、変形しているので、大修理を施す事とんった。